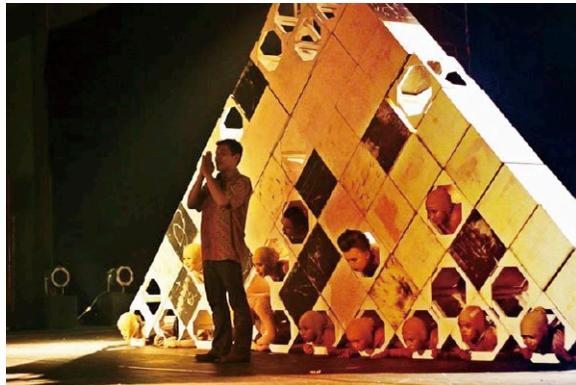


BEAUTIFUL WATER

ビューティフル・ウォーター



キラリふじみが昨シーズンからスタートさせた、東南アジアの舞台芸術とのコラボレーション・プロジェクト。その第二弾は、芸術監督の多田淳之介が、日本・インドネシア・マレーシアのアーティストとともに創作する『BEAUTIFUL WATER』です。海外での共同制作の経験を重ねながら、様々な国や地域を見つめ続けてきた多田がアジアの各地から集まったアーティストの多様な視点や感性を重ね合わせ、我々が生きるアジアの「いま」を浮かび上がらせます。



多田淳之介 Tada Junnosuke

演出家、俳優。東京デスロック主宰。1976年生まれ、千葉県柏市出身。2010年4月より、富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に就任。俳優の身体、観客、劇場空間を含めた、現前＝現象をフォーカスした演出が特徴。古典から現代劇、パフォーマンス作品まで幅広く手がける。『演劇LOVE』を公言し、地域、教育機関でのアウトリーチ活動も積極的に行い、韓国、フランスでの公演、共同製作など国内外問わず活動する。俳優としても他劇団への客演や、映画、TVドラマにも出演。2013年、日韓共同製作作品『ガムレ』で、韓国の演劇賞「第50回東亜演劇賞」を受賞。これまでのキラリふじみ・レパートリーに、『あなた自身のためのレッスン』(2011,2012)、『ハムレット』(2013)、『奴婢譚』(2014)、『颯風奇譚』(2015)がある。

伊東沙保 Ito Saho

1980年千葉県生まれ。俳優。特定のカンパニーに所属せずに活動し、地点、チェルフィッチュ、サンプル、ハイバイ、五反田団、モダンスイマーズ、範囲遊泳、ロロなどの作品に参加。多田淳之介作品には、キラリふじみ・レパートリー『あなた自身のためのレッスン』に出演。

中林舞 Nakabayashi Mai

4歳～18歳まで今村昌子、牧阿佐美らに師事してクラシックバレエを習う(受賞歴あり)。2004年、多摩美術大学にて劇団小指値(koyubichi=現 快快 FAIFAI)を旗揚げ。2012年に退団するまで、ほぼ全作品に出演。外部の舞台にも積極的に出演し、小劇場からエンタテインメントまで活動範囲は幅広い。美しさと実力を兼ね備えた存在として、新たな境地を開拓し続けている。憂いとユモアの両面を併せ持つことも魅力。また、“バンドじゃないもん!”をはじめ多くのアイドルや演劇の振付師としても活躍している。



伊東沙保



中林舞



永井秀樹



山崎皓司



Achmad Chotib



Ilham Jambak



Komaruddin



Holfifah Wira



Sharifah Amani



Iedil Putra



Thian Siew Kim



Tung Jit Yang

日本 Japan

インドネシア Indonesia

マレーシア Malaysia

今やアジア各国で飼育されている金魚は水が綺麗だと自分の糞尿のアンモニアの毒で死んでしまいます。金魚が生きていくためにはアンモニアを分解するバクテリアが発生している水環境が必要なのです。私たち人間はどうでしょうか？ アジア地域の3カ国から集まった3人の演出家と12人の出演者たちが、 **Oversaturation 過飽和 / Happiness 幸福 / Safety 安全性 / Anxiety 不安 / Spirituality 精神性 / World 世界 / Acrobat 曲芸** の7つのキーワードを元に、私たちの生きている環境について作品を組み上げます。多様な小さな水槽や大きな一つのアクアリウムを覗きこむような作品になるでしょう。国も文化も言葉も違う私たち、ただ、私たちの生きている現代という水は、間違いなく繋がっているのです。多田淳之介



Bambang Prihadi バンバン・プリハディ

Bembeng 通称ベンベン。1999年から数々のインドネシア戯曲を演出。2005年に「Lab Teater Ciputat」を創立。インドネシア演劇連盟において全国規模の様々な文化イベントや芸術活動を実施する。自身のグループでの主な演出作品：『Kubangan』、『Terjepit』、『Cermin Bercermin』、『Mada』、『Mata Air Mata』、『XQM4GZ』。UIN 大学(ジャカルタ)のドラマ研究指導教官に就任。日本へは2012年、2013年、2015年のAPAFプログラムで招聘来日。鈴木忠志演出による、SCOT(日本)とPurnati(インドネシア)のコラボレーションプロジェクトに参加。

Achmad Chotib アフマッド・コティブ

Eko 通称エコ。MANPK高校(西ジャワ、チアンジュール)時代から演劇活動開始。1995年UIN大学(ジャカルタ)内のSyahid劇団に俳優として参加。ブルンガン(南ジャカルタ)のSiluet劇団にも参加。バンバン・プリハディ演出作品には『Umanag-umang』と『Mada』で参加。2000年に自身が作・演出をする『El-nama』を設立。ジャカルタ演劇フェスティバルにて回数受賞。2017年には同フェスティバルにて『Hanjuro 2』の作品で最優秀演出賞を受賞。

Ilham Jambak イルハム・ジャンバック

Sir 通称シル。UIN大学(ジャカルタ)在学中の1996年よりSyahid劇団に参加し演劇活動を開始。バンバン・プリハディ及びアフマッド・コティブ演出による、数多くの戯曲作品に出演。2005年の「Lab Teater Ciputat」創立当初から参加。2009年からはナノ・リアンティアルノ率いる「Teater Komaj」にも俳優として参加。ジャカルタ内の学校にて数多くの子供や大人の演劇グループの演出を行う。2015年に全ジャカルタ高校演劇フェスティバルにて最優秀演出賞を受賞。

Komaruddin コマルディン

Aseng 通称アセン。IAIN大学(ジャカルタ)在学中の1992年初頭、Syahid劇団に参加。その後俳優として、数々の劇団や作品に出演。2005年にLab Teater Ciputatに参加。2001年と2003年にジャカルタ演劇フェスティバルにて最優秀俳優賞を受賞。2005年にはジャカルタ特別州主催のモノログコンテストにて最優秀俳優賞受賞。Kummis劇団では演出も手がける。同劇団は2015年にジャカルタ演劇フェスティバルにて最優秀劇団賞受賞。

Holifah Wira ホリファ・ウィラ

Olif 通称オリフ。2002年からUIN大学(ジャカルタ)のSyahid劇団に参加し、数多くの作品に女優として出演。ルアン・パブリック・モノログフェスティバル及びプテュー・ウィジャヤ・モノログフェスティバルにて最優秀女優賞受賞。モノログ作品出演以外にも、ナノ・リアンティアルノ作、脚本『Bom Waktu』詩から作り上げた作品『Penjara Hujan』などの演出も手がける。バンバン・プリハディ作品への参加は『Cermin Bercermin』、『Terjepit』、『Mata Air Mata』。



Jo Kukathas ジョー・クカサス

劇作家・演出家・俳優。インスタントカフェ・シアターカンパニー芸術監督。『あいだの島』、『ホテルグランドアジア』(主催:国際交流基金、世田谷パブリックシアター)等の国際コラボレーションに参加、また日本財団APIフェローとして日本とインドネシアでリサーチをおこなう。演出作品の『NADIRAH』(作:アルフィアン・サアト)は東京でも上演された(フェスティバルトーキョー16)。日本、ニューヨーク、オーストラリア、シンガポールで自作を上演。また台湾、オーストラリア、ブラジルでワークショップを実施。現在はマレーシアとシンガポールを中心に活動している。

Sharifah Amani シャリファ・アマニ

マレーシアの映画監督、故ヤスミン・アフマドとの出会いにより、女優として活動を始める。『細い目』、『グブラ』、『ムクシン』、『ムアラフー改心』(いずれも監督:ヤスミン・アフマド)、『アジア三面鏡2016:リフレクションズ』(監督:行定勲ほか)ほか数多くの映画に出演。舞台やテレビでも活躍する一方、短編映画の監督も手がける。フェスティバルトーキョー16で上演された『NADIRAH』では、主役のナディラ役を演じた。

Iedil Putra イデル・プトラ

1994年、10歳のときにパフォーマンスアーツの世界に足を踏み入れ、その後20年以上にわたリマレーシア国内外で活躍。数多くのテレビ、映画、舞台作品に出演する。主要な映画作品に『ノヴァー UFOを探して』(監督:ニック・アミル・ムスタファ)、『インターチェンジ』(監督:ディン・サイド)。舞台作品に『Ola Bola』、『Parah』、『P. Ramlie The Musical』等。コメディアンサンプルや即興演劇グループにも参加している。

Thian Siew Kim ティエン・シウキム

舞台と映画を中心に活躍。舞台の代表作に『スリー・チルドレン』、『18th Floor』がある(いずれも演出:ホー・シーピン)。2011年、マレーシアの演劇賞であるADAドラマアワードの最優秀新人女優賞を受賞。翌2012年には最優秀女優賞を獲得。2016年、映画『Seventh 守夜』で、マレーシア台湾交流映画祭の最優秀新人女優賞と最有望新人女優賞をダブル受賞。近年、中国のiQiyi社が制作するインターネットテレビシリーズのメインキャストとして抜擢された。

Tung Jit Yang トウン・ジットヤン

俳優・演出家。ニューヨーク大学芸術学部を卒業。現在、クアラルンプール・パフォーマンスアーツセンターのレジデントディレクターをつとめる。これまでの作品に、シェイクスピアの『マクベス』をマレーシア風に翻案した『Dato Seria』、実験的ミュージカル『Losertown』、ジョー・ジータウン・フェスティバル2017招待作品である『Riwayat』等がある。またマレーシアの劇作家を育成し、活動の場を広げるプログラム“The New Play Project”を主導している。